

【緑地の樹】

キブシ<木五倍子>

春になるといち早く、キブシの花が山の端を飾ります。一つ一つの花はうす黄色で小さいのですが、舞妓さんのかんざしのように長い房状に咲き、風に揺れています。

キブシの花を見つけると、どうしてもその小さな壺のような花の下から中をのぞきたくなくなってしまいます。「ちょっと失礼！」と覗いたとき、黄色い雄しべが見えたら雄花で、それは雄の木、緑色の雌しべが見えたら雌花で、その木は雌の木です。キブシは雌雄異株なのです。でも、わざわざ中をのぞかなくても、どうやら雄と雌の見分けはつくようです。雄花は房が長く、雌花は短めだとか。そして、花は山菜としておひたしやてんぷらで食べることができるそうです。ただし、受粉してしまうと、タンニンが多くなり渋くなってしまうので、咲いたらすぐに食



雄花



雌花

プロフィール：キブシ科 キブシ属

中央広場から山に登る階段の横に生えています。

べてみましょう。

キブシの実にはタンニンが多く、お歯黒などに使われていたフシ（五倍子）の代用として染料にも使われたそうで、そのため木五倍子（木の五倍子）とよばれているのです。

（小川）